

「第六回日銀グランプリ」 「キャンパスからの提言」の 決勝開催

▼日本銀行では、昨年十二月四日、大学生を主な対象とする金融経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第六回日銀グランプリ」キャンパスからの提言」の決勝を本店において開催しました。今回のテーマは、「わが国の金融への提言」。わが国の金融に関するテーマを自由に設定し、それに対する具体的な処方箋を提案してもらいました。また、今回より日本銀行の政策や業務に関する提言の中から特別賞を新たに選定することとしました。全国から一〇四編もの多数の論文が寄せられ、応募要領に沿った一次審査の結果、五チーム（広島市立大学国際学部、麗澤大学経済学部、東京経済大学経済学部、東京大学経済学部、明治大学商学部）が決勝に進出しました。また、惜しくも決勝進出には至らなかったものの、決勝進出チームに次ぐ上位にランクされた



八チーム（中央大学、東京理科大学、慶應義塾大学、同志社大学、東洋大学、成城大学、山口大学、明治大学）を「佳作」に選定させていただきました。

▼決勝当日は、日本銀行本店において、決勝進出チームがそれぞれ五分間のプレゼンテーションを行った後、審査員からの質問に答えるというかたちで進められました。審査員には、数士文夫氏（経済同友会副代表幹事、JF Eホルディングス相談役、安井肇氏（あ

らた監査法人あらた基礎研究所所長）をお招きしたほか、日本銀行から西村清彦副総裁（審査員長）、野田忠男、宮尾龍蔵両政策委員会審議委員が参加しました。審査終了後、審査員長から、「IT技術の進展を踏まえた提言がみられたほか、採り上げるテーマの幅もバラエティーに富むなど、全体としてレベルアップしてきている」「特に決勝に残った作品は、わが国の金融に関する課題に関し、問題意識を持った上で、実地調査なども踏まえた独自性ある提言に結び付けている点良かった」「プレゼンテ



審査員との質疑応答も活発に行われました

ーションも意欲と工夫がみられ、審査員から厳しい質問を受けても、しっかりと自分たちのチームの主張を展開しており、頼もしく感じたとの総評がありました。



▼厳正なる審査の結果、最優秀賞および特別賞には、麗澤大学経済学部チームの「金融特化型SNSサイト」『日銀チャンネル』の構築に向けて」が選ばれました。「インターネット技術の進展を踏まえ、日本銀行も情報発信ツールを不断に見直すべきとの主張はその通り」「ユーザーが疑問に思うこと

最優秀賞および特別賞に輝いた麗澤大学経済学部
チームと審査員の皆さん



を質問できる電子掲示板機能等、具体的な提言が豊富に盛り込まれており、傾聴に値する点も少なくなかった。「日本銀行のホームページの使い勝手などについて学内でアンケートを実施し、その結果に基づいて現状分析を行っている」点などが高く評価されました。このほか優秀賞二チーム、敢闘賞二チームを、以下の通り選出しました。五チームの作品全文および審査員の講評は、日本銀行ホームページに

ージに掲載されています。
<http://www.boj.or.jp/>

【最優秀賞】 および 【特別賞】

●麗澤大学経済学部チーム

「金融特化型SNSサイト」『日銀チャンネル』の構築に向けて」

【優秀賞】

●広島市立大学国際学部チーム

「全世界的な金融教育推進運動の提唱（金融危機の経験を活かして）」

●明治大学商学部チーム

「日本における社会貢献事業型倫理銀行の発展に向けて」オランダの倫理銀行と環境金融優遇制度の成功を範として」

【敢闘賞】

●東京経済大学経済学部チーム

「国境なき医シ団」日本の先進医療を海外へ」

●東京大学経済学部チーム

「アイデア応援投資」個人投資家によるベンチャー支援の新たなかたち」

▼「日銀グランプリ」キャンペーンからの提言」は、来年度も開催

する予定です。全国各地で一人でも多くの学生の方々が、若者らしい問題意識、発想に基づき、自ら主体的に考え、自分の足で調べることを通じ、わが国の金融面の課題に挑戦し、提言をしていただることを心から期待しています。

企画展

「貨幣・天下統一—家康がつくったお金のしくみ—を開催しています！」

▼徳川家康による天下統一後、江戸幕府は各種制度を整備していく



儀礼の場面で使われた貨幣（錦絵）

中で、金・銀・銭の三貨からなる貨幣制度（三貨制度）をつくりました。

中世には国家による貨幣は発行されず、中国からの渡来銭が広く流通していました。戦国期にはそ

企画展

貨幣・天下統一

—家康がつくったお金のしくみ—

2011年2月19日(土) - 7月3日(日) 入場無料 全日無料

開催期間：10時30分～18時30分（入場は18時まで）
休 日：月曜日（祝日・祭日を除く）
電 話：03-5277-3637 <http://www.imes.boj.or.jp/10w/>
〒200-8501の部局は、郵政の業務に支障を及ぼさないよう

貨幣博物館 日本銀行金融研究所
CURRENCY MUSEUM

編集後記

■現代科学の最先端を分子生物学が担い始めてから久しい。かつて生命の神秘とされていた領域は物質の化学反応メカニズムによって説明されることが多くなり、技術面での操作性も向上して遺伝子工学等の発展につながっている。今やヒトゲノムの解読もすべて終わっているという。しかしながら、前世紀以来、科学技術の進歩を手放しでは喜ばなくなっている現代社会にあっては、この分野でも科学技術の光が逆に人間の闇を増幅しかねないという誠に奇妙な結果を招いている。遺伝子操作が無秩序に行われれば、人間社会の存立基盤は根底から覆されよう。現在に至るも原子力を平和利用に特化しきれていない人間社会が背負う試練がまた一つ増えたような気がする。「生命とは何か」との問いは、そうした意味でも限りなく重く大きい。(大川)

■今号のインタビュー「扉を開く」でお話を伺った福岡伸一先生は、貨幣(コイン)にもとてもご興味をお持ちのこと。今回、写真撮影を行った日本銀行金融研究所貨幣博物館には、もう何度もお越しいただいているそうです。写真撮影の合間、スタッフから展示物を説明させていただきましたが、熱心に耳を傾けていらっしゃいました。ケースに並べられた貴重なお札やコイン等を嬉しそうに見つめる先生のまなざしは、きらきらと輝いており、かつての「昆虫少年」をほうふつとさせました。(MK)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2011年春号
編集・発行人 大川昌利
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。



切り遣い銀 (16～17世紀)

の流通は混乱し、人々は撰銭(えりぜに)を行うようになりました。一方、戦国大名の鉱山開発により、各地で金銀貨がつくられるようになりました。そうした中、徳川政権は、品位や量目などを統一した金貨(大判・小判など)・銀貨(丁銀など)・銭貨(寛永通宝)を発行しました。本企画展では、一七世紀前半に江戸幕府が三貨制度の枠組みを固めていく過程を、戦国大名の政策継承や貨幣の製造体制整備などの面から、最新の研究成果を踏まえてご紹介します。あわせて、江戸

【開催期間】

二〇一一年二月十九日(土)～

【お問い合わせ先】

〇三―三七七―三〇三七

初期に日本の金・銀・銭が海外へ大量に流出した実態と、幕府の貿易・外交政策上の対応についてもご紹介します。

七月三日(日)

【開館時間】 九時三十分～十六時

三十分(入館は十六時まで)

【入館料】 無料

※休館日は、月曜日、祝日、このほか設備点検のため臨時休館することがあります。

【場所】 貨幣博物館

東京都中央区日本橋本石町一―三―

<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>